

「グローバル企業力診断」 グローバル先進7社の声

グローバル企業力診断サービスでは、グローバル先進企業7社平均の各種指標と、診断を受診する企業の各種指標との比較分析が可能です。

この先進7社に対して2011年秋に、7社平均と比較分析した結果をご報告しました。その報告会での7社の幹部の声をご紹介します。

■グローバル先進7社とは

ベンチマーク対象となったグローバル先進企業7社とは、従業員数が4万～30数万人、売上高が1兆～10数兆円台の規模で、海外（本国以外）の売上比率が4～8割台と、グローバル展開が進んでいる企業。業種構成は、製造業6社（食品、機械、自動車、電機、IT）、およびコンサルティング業1社。母国は日本系が2社、米国系4社と欧州系1社。

【7社の声】

- 診断結果は、会社として取り組んでいないことが低く出ており、想定している経営モデルとのギャップを測定するという意味で、納得できる。今回対象としたのは特定部門だが、全社でこの診断を実施することを検討したい。
- 診断結果に表れた強み・弱みは、我々の問題意識と合っている。これが定量的に表現されていて分かりやすい。課題や提言については、的を射た本質的な指摘をいただいた。
- この診断は興味深い。今後に向けた提言内容は、僕自身も感じていたことだ。企業価値観は、上級幹部には徹底していることも、マネジャークラスには浸透できていないのかもしれないと感じた。
- わが社は全体として、先進7社平均と比べ良好な診断結果を得られた。ただし、製品・サービスを改善する優先順位が高いのはうなずける。ご提言は不十分な点がないか見直すのに役立てたい。
- 診断結果は示唆に富む内容だ。調査対象者は幹部クラスであり、彼らにどのような教育をすべきかを考えさせるきっかけとなった。
- 日本の経営陣が普段感じている会社の状態が診断結果に出た。この診断は実態を表す良いものだ。イノベーションを奨励する仕組みを導入する提言をもらったが、まさに導入を計画しており、その後押しをしてくれるものとなった。
- ここ数年の経営状況を踏まえると、診断結果に違和感はない。自覚症状のあることが診断結果に表れたという印象だ。経年変化を見ていくのも良いと思った。